

第7回旭市道の駅建設準備委員会（視察研修）会議録

日 時：平成26年10月30日（木）

7：25～19：30

場 所：茨城県小美玉市 空の駅「そ・ら・ら」

茨城県下妻市 道の駅「しもつま」

事務局：企画政策課

- ・出席者 12名
- ・欠席者 5名 林委員、土屋委員、菅生委員、大塚委員、大久保委員

あいさつ

委員長：公私共に忙しい中視察に参加いただきありがとうございます。開業予定まで1年をきりました。今日の研修が実りあるものになることを期待いたします。よろしくお願いします。

○事務局より本日の行程及び出荷者の状況、工事関係について車中で説明

①〔空のえき「そ・ら・ら」における研修〕

小美玉市産業経済部商工観光課

※小美玉市より資料に沿って説明

- ・茨城県小美玉市の直営の「地域再生拠点施設」として平成26年7月にオープン。
- ・施設は農産物直売所、物産館、レストラン、チャレンジショップ、イベント広場、乳製品加工施設等がある。
- ・開店時は市の直営でオープンしたが、将来的には指定管理者への移行を目指す。
- ・農産物直売所及び物産館についてはJAに運営を委託している。
- ・レストランはバイキングスタイルである。
- ・チャレンジショップは地元のテナントが3店舗入っており、将来の独立を目指して営業している。
- ・小美玉産の生乳を使った乳製品作りに取り組み、施設は工場見学もできる。

事前の質問事項に対する回答

(1)建設地の選定にあたっての経緯や計画時の問題点について

財源の確保が大きな問題であったが、補助金や起債等を活用することで、市民や議会の理解を得ることが出来た。

(2)管理運営方法、組織の設置にあたり苦労した点

当初は小美玉市の直営として開業したが、最終的には指定管理者への移行を目指している。それぞれの施設の運営はJAであったり公社への委託となっているので、それぞれの運営方針の調整を行っている。

(3) 駅長の選定方法、選定にあたり苦勞した点

駅長は全国公募で選定した。選定にあたっては第三者の選定機関で審査を行い決定した。現在の駅長の経歴は、元々は県職員であったが、退職後に民間施設の施設長をしていた経緯があり、行政と民間の両方の経験があることが高い評価となった。苦勞した点は特にない。

(4) テナントの選考方法

公募をして選定した結果、J Aに決定している。施設を一体的に貸すかそれぞれの施設ごとに貸し出すか協議があったが、それぞれの施設ごとに公募した結果、J Aから一体的な運営の応募があり、それが評価された理由である。

(5) バイキング運営の経緯、状況

地産地消のコンセプトからバイキングに決定している。

(6) 管理運営上で生産者等との調整で苦勞している点

時期によって、出荷される商品が重複してしまう。生産計画の調整が難しい。

(7) 生産者組織の出荷体制や販売手数料

出荷者協議会が組織されている。販売手数料は生鮮品、加工品でそれぞれ定めてある。

(8) 販売は会員からの納入品のみか

生鮮品については仕入れの部分はなく、100%出荷者からの出荷品である。加工品については一部仕入れ品がある。

②〔道の駅「しもつま」における研修〕

下妻市建設経済部、下妻市産業振興課

株式会社ふれあい下妻：専務取締役、駅長

※下妻市他より資料に沿って説明

- ・平成11年9月開業。茨城県と下妻市の共同事業として位置づけ整備を実施。
- ・管理運営は指定管理者である株式会社ふれあい下妻。
- ・施設は農産物直売所、観光物産館、納豆工場等の加工施設、レストラン、ファーストフード店、研修室等である。
- ・納豆工場は地元産の大豆を使用し、こだわりの納豆を製造している。工場見学も可能。
- ・季節ごとに様々なイベントを実施している。
- ・平成26年度は、施設の全面リニューアル工事を予定している。

事前の質問事項について回答

(1) 建設地の選定にあたっての経緯や計画時の問題点について

国道を中心に3箇所の候補地から用地確保の可能性、交通流動の円滑さ、広域的な中かの位置づけ、市民にとっての利便性、敷地からの眺望、市内既存施設との関係性の6点から現在の建設地に決定した。

(2) 管理運営方法、組織の設置にあたり苦勞した点

指定管理制度を採用している。第3セクターへの委託で、委託期間は3年間である。

(3) 駅長の選定方法、選定にあたり苦勞した点

初代駅長は販売に精通した駅長であった。現駅長は民間のサービス業から道の駅の駅長となった。

(4) 管理運営上で生産者等との調整で苦労している点

出荷品の安定供給であるが、生産者同士の連携等で次第に調整がとれるようになってくる。

(5) 生産者組織の出荷体制や販売手数料

農産物直売所出荷組合を組織している。各分野ごとに手数料を設定している。

(6) 販売は会員からの納入品のみか

会員からの納入品のみであるが、一部で仕入品も扱っている。

視察研修における感想

委員：「そらら」は新規にオープンした施設で建物が綺麗で、造りでも他の道の駅との差別化が感じられた。一方、「しもつま」は15年以上が経過した施設で、改装時期を迎えており、旭の場合も改装等については早めに検討していった方が良いと感じた。バイキングは満足できた。お洒落な感覚を取り入れていった方が良い。

委員：それぞれの施設の職員の対応がとても良かったので見習いたい。「そらら」のチャレンジショップが良いと感じた。3つの施設ともやる気が感じられた。また、バイキングの木製の器が良かった。「しもつま」については、運営に大事な事は、携わる人であるという話が印象的であった。リニューアル後に再度、来てみたいと感じた。

委員：出荷者協議会での調整が課題となるので、今後も出荷者協議会の在り方について協議を行っていききたい。また、「そらら」の施設が非日常的な感覚で良かった。

委員：それぞれの施設が地域の拠点になっているのを感じられた。道の駅から情報発信していく工夫が必要である。また、道の駅に携わる人や市民の意見が取り入れられる道の駅になると良いと感じた。旭の道の駅の従業員も、接遇や商品の研修を実施し、エキスパートになってもらいたい。

委員：「そらら」のネーミングが素晴らしいと思う。バイキングは満足できる品揃えであった。人によって感じ方が違うので値段設定が難しい。「しもつま」は職員の対応が素晴らしかった。

委員：「そらら」は、中に入ると施設内が円状に見渡せてとても良かった。バイキングは、美味しかった。子供の絵が展示してあり良かった。「しもつま」は、これから売上を上げていくという意気込みが感じられた。「そらら」のコンシェルジュは消費者の事を良く考えていると感じた。消費者と共に道の駅を盛上げていけると良い。

委員：「そらら」は地元の特産である酪農を活かし、乳製品を製造しているのが良かった。バイキングにもヨーグルトが出されていたが、とても美味しくて、リピーターを呼ぶ品になると感じた。それぞれの説明の中にあつたが、設計の段階で施設を使う人の意見が入らないと、後で設計の変更等になってしまうとのことだったので、旭の場合もコミュニケーションをしっかりとりながら進めてもらいたい。

委員：平日の客をどう増やすかが課題になると思うが、地元の客に愛される施設にすることだと思う。その為には、道の駅に関わる人の教育が大事である。また、テナント等の施設利用者が使いやすい設計に出来ると良い。

委員：「そらら」は乳製品の製造、「しもつま」は納豆の製造というそれぞれの特徴が感じられた。他の商店と比較して付加価値をつけた高い納豆を売るということは大変な事だと思う。「そらら」のチャレンジショップはテナントのやる気が感じられた。

委員：「そらら」のネーミングが大胆で素晴らしい。バイキングの品揃えは良かった。

委員長：利用者が多い道の駅は、商品で溢れている。良くするのも悪くするのも最終的には経営である。その為にも人材育成はしっかりとやっていきたい。